

## 2015年 マッターホルン試登、モンブラン登頂

### ツェルマットへ

ホテルで早起きしたので、レマン湖に出かけてみる。南の方角にはモンブラン山群が望めるが、考えてみれば、何度もジュネーブに来ていながらジュネーブからモンブラン山群を見たのは初めてである。やがて東の空が明るくなり日の出を迎える。その後、路面電車で駅まで行ってからホテルに戻り、朝食をとる、ホテルから駅までは空身だったので楽だったが、駅のコインロッカーで荷物を回収してからは大荷物となり、移動もなかなかたいへんである。列車はフィスプ乗り換えで3時間半ほどでツェルマットに着く。ハイシーズン前にもかかわらず町は観光客で賑わっている。目の前に現れたマッターホルンは予想していた通り、雪が多いが、ヘルンリ稜自体にはさほど雪は付いていないようなので予定通り、マッターホルンに向かうことにする。荷物が多いため、登山靴を履いて荷物を軽くしてからホテルまで荷物を運んだ後に町に戻って若干の食料と装備を買いたす。

買い物が終わった頃に昨日からツェルマットに来ている仲間とも合流してメンバー5人全員が揃い、いよいよマッターホルンに向けての行動が現実のものとなってくる

## アクシデントのためマッターホルン撤退



朝一番近くのゴンドラでシュバルツゼーに上がり、3時間半でヘルンリ小屋に到着する。ところが小屋周辺の様子がどうもおかしい。小屋が本年から改築されたことは知っていたが、昨年までは黙認されていたらしいキャンプ場が小屋が拡張されてスペースがなくなったためか、見当たらなくなってしまったのだ。幸い、小屋はまだオープン前で小屋の人も入っていないようなので小屋の前に強引にテントを張ってしまう。以前のキャンプの記録では近くの流水を利用しているとのことだったが、登ってきた道を少し戻った所でしか流水はなかったようなので、水汲みとルート偵察の二組にメンバーを分けることにした。

ルート偵察の方は、取りつきの固定ロープを越えてしばらく進んでみたが、ソルベイ小屋直下のモスレイスラブが雪に覆われている以外は雪のない道を進められることを

確認し、登頂成功の鍵は雪の付いているモスレイスラブが突破出来るか否かにあることがわかってヘルリン小屋前に戻った。

小屋に戻ってみて、水汲みメンバーの報告を聞いて愕然とした。流水は石灰分を大量に含んでいて飲用には適さないというのだ。こうなつた以上は小屋の上部にある積雪を融かして水を得るしかない。流水利用を前提とした燃料の用意しかないので、果たして必要な量を確保出来るかどうかは不明であったが、とにかくやってみるしかなかった。

まずは第一回目の水を作ってみると、なんとその中にも多少の石灰石が混じっているではないか。風で飛ばされた小石が堆積したものだだろうが、この程度ならば飲用には差し支えないという気はしたものの、メンバーの中には不安を訴える者がいる以上は、この方法もとり得ない。となると結論はマッターホルンは断念して下山するしかない。

その晩はパンとスープにサラダの極力水を使わない夕食で済ませて、明朝は始発のロープウェイに間に合うように下山することとして早めに寝てまうことにした。

## シャモニへ



マッターホルンのモルゲンロートを眺めてからヘルンリ小屋を後にする。2時間半ほどでシュバルツゼーに着き、ロープウェイでツェルマットに戻る。

簡単な昼食後、登れなかったマッターホルンに後ろ髪を引かれながらシャモニに向かう。三回の乗り換えでもう2度と来ることはないだろうと思っていたシャモニに到着する。

予定よりも早くシャモニに到着したため、今夜の宿を確保することと、モンブラン登頂に備えて明日のコスミック小屋の予約が必要となる。コスミック小屋の予約はすぐに来たが、今夜の宿の確保には難渋し、郊外のユースホステルにようやく泊まれることとなる。このホステスは明日利用するミディのロープウェイの料金以下の43ユーロでシャモニ周辺のロープウェイが乗り放題というお得な宿泊料金であった。マッターホルンでは水不足で調理らしい調理ができなかったので、今回初めての本格的な自炊である。切り干し大根、高野豆腐、とろろ汁にアルファ米とスープ類という軽量化を図っ

たメニューであるが、思っていた以上にボリュームもあり美味しかった。食後はモンブランの準備を行って明日に備える。

## モンブラン登頂



夜中の2時にコスミック小屋を出発してモンブランを目指す。モンブラン直下4500メートル付近で高山病の症状により体調不良となったメンバー1人が残ることとなり、残りのメンバー四人で山頂を目指す。

12時までには多少の時間差で四人が登頂し、すぐに下山を開始する。途中でリタイアしたメンバー1人と合流して帰路を進む。

高山病にかかった人もだいぶ元気になったようでこのまま何事もなく終わるかと思いきや、コース唯一の難所の緩い傾斜の壁の下部で1人が転落して足を捻挫するアクシデントが発生する。ヘリコプターを呼べて、負傷者だけでなく残りのメンバー全員もヘリコプターで下山することができたのはラッキーだった(しかもタダで)。おまけに私ともう1人のメンバーはレスキュー隊員の悪い冗談で、シャモニでなくイタリヤ側に下ろ

されると言われたり、3時間以上はかかるコスミック小屋まで歩けと言われたり散々だった(実際に乗り継ぎのためにコスミック小屋下の台地に下ろされた時は、そこから小屋まで歩くことを覚悟したものだが)。さらには我々二人はホバリングしているヘリコプターから下ろされたワイヤーに吊り下げられたままで飛び立ったので、このままの格好で麓まで行くのかと思いきや、しばらくしてワイヤーが引き上げられてヘリコプター内に收容されたのでホッとしたが、貴重な体験をすることができた。

ユースホステルに着いたのが8時過ぎだったので、周辺の店屋も閉まっていた、ホステルの地下でビールを飲んだだけで夕食代わりとしてしまったが、おかげで2日続きの禁酒とはならず済むことができた。